

アウトリーチ活動報告書

菅井徹人
森林総合研究所北海道支所
研究員

【活動概要】

行事名：北海道デンドロセミナー入門編～解析の初歩から効率的なコア採取方法まで～

開催期日：令和 7 年 9 月 29 日（月曜日）09：00～16：00

開催場所：森林総合研究所北海道支所

参加者数：総勢 10 名（内訳：大学生 8 名、大学教員 2 名）

【活動報告】

本セミナーは、学生をはじめとする次世代に対し、座学と実習を通じて森林生態学および年輪年代学への初歩的理解を深めるとともに、参加者間の交流を促進することを目的として開催しました。座学ではまず、主催者の菅井が国内の森林管理の現状や、北海道における気候変動の森林への影響、そしてこれらを踏まえた今後の森づくりの要点について紹介しました。現在、林業は厳しい経済情勢のもと、「切ったら植える」という循環型森林管理の実現に向けた再造林が進んでいないという課題を抱えています。この課題解決に向けた取り組みの方向性に加え、気候変動に対応した長期的な森林管理の指針や、年輪情報の活用可能性についても解説しました。続いて、講師の鄭俊介博士（森林総合研究所北海道支所）より、年輪年代学の基礎、解析手法、そして解析結果の活用事例について、ご講演いただきました。木材の年輪を用いた年代決定法は、考古学、気候学、生態学など幅広い分野で応用されており、人文科学と自然科学を結ぶ学際的研究として発展してきました。とくに、気象観測が始まる以前の気候を、自然に分布する樹木の年輪情報から復元する試みは、年輪年代学の中でも最も重要な研究の一つとされています。鄭博士からは、このような貴重な情報を年輪から抽出するための解析の基礎について詳しい説明がありました。午前中の座学に続き、午後は野外実習として年輪コア（木の幹から採取するサンプル）の採取を行いました。実習では、石塚航博士（北海道立総合研究機構林業試験場）を講師に迎え、伝統的な手動によるサンプリングから、先進的機器を用いた効率的な手法、さらには現場でのトラブル対応まで紹介いただきました。セミナー参加者は実際にサンプル採取を体験し、午前中に学んだ内容を現場で確認することで理解を一層深めました。また、共同作業を通じて参加者同士の交流も活発に行われました。一連のプログラムを通じて、次世代への啓発活動を実践するとともに、科学と社会の関わりについての問題意識を共有できた有意義な機会となりました。